

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	安心・安全社会構築のためのシステム人間科学の創成	研究代表者名	新井 健生
-------	--------------------------	--------	-------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
個々の問題については成果をあげているが、「システム人間科学」というタイトルから考えられるような体系化までは到っていない。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ () 概ね貢献できた
- ウ (×) 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
画像処理などによる人物同定や、故障診断システムの構築などは、他の分野でも個々の技術として利用可能ではある。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
多くの視点から人間の思考と行動をとらえようという意欲は認められる。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
論文の発表などは多くなされているが、この報告だけでは具体的に社会への普及、波及が必ずしも明確ではない。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
×	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

システム人間科学というテーマを掲げて研究を進めており、領域 A、B、C のそれぞれは成果をあげているが、各領域の統合が図られているようには見えない。各領域としては、格別新規テーマとは言えないので、今後全領域をどのように統合して「システム人間科学」という分野を切り開いていくのかを明確に示すことが必要である。